

International College of Dentists

Honoring the World's Leading Dentists Since 1920™

Japan Section

Honoring our colleagues...



...Commitment to our profession



綱 領

International College of Dentists (ICD) は、優れた業績および価値ある奉仕の自覚、そして人道的で教育的な率先性を唱える、世界屈指の名誉ある歯科団体です。

名 誉

International College of Dentists (以下、国際歯科学士会) は、自身の行動により、職業に対する不変の関心と関わりを示す世界的に傑出した歯科医師の優れた名誉ある世界屈指の組織です。人のキャリアにおいて最も重要な機会の一つはプロフェッショナルな組織の会員と認められることです。古代から教育者、牧師と並び聖職者とされる歯科医師という職業において、国際歯科学士会の会員として承認されるという事はその職業における最高の名誉、すなわち奉仕および高い倫理行動を通じた職業としての名誉が授与されるという事です。国際歯科学士会という発想は1920年Louis Ottofy博士によるもので、1928年に日本の奥村鶴吉博士の助力を得て始められました。その目的は、歯科医師という職業の中で友好関係を促進し、科学的な情報を広める事に助力することでした。国際歯科学士会は、一般大衆の保健福祉の為に科学そして技術としての歯科学を促進させるため、歯科医師という職業における世界の傑出したメンバーを集め、歯科学の知識交換そして歯科医師という職業を世界的に発展させるために組織されました。

国際歯科学士会の使命

国際歯科学士会は、傑出したプロフェッショナル（職業人）の業績の認識、賞賛に値する奉仕、および歯科医師という職業の継続する発展によってすべての人類のために貢献する先進的な名誉ある歯科の組織です。

目 的

国際歯科学士会はいくつかの重要な目的を持っています。

以下にそれを示します。

- 国際的に一般大衆の保健福祉のために技術と科学としての歯科学を促進させる。
- 歯科学と同系の分野での卒後の勉強および研究を促進する。
- 歯科的知識の発展と拡がりを促進するために、世界の歯科医師の傑出したメンバーを集め、専門職間での意義ある交流を促進する。
- 歯科学と他の健康に関わる職業に携わる人々の間に友好的な関係を養成する。
- 予防と歯科疾患のコントロールのために様々な組織と協力する。
- すべての会員に、最も高い倫理感と職業としての行動を維持するよう指示することにより職業の威厳を保ち、向上させる。
- 歯科学の歴史を不朽のものとする。
- 職業に対する賞賛に値する奉仕を認め、組織として友情を培う方法を提供する。
- 人道主義に立脚した企画を促進し、援助する。

設立の経緯

1920年11月、日本の東京で

国際歯科学士会という発想は歯科医師、医学および法学博士であるLouis Ottofyのために行われた送別会でスタートしました。彼はフィリピンと日本で歯科医師としての治療を23年間行った後に、米国に戻るところでした。日本の奥村鶴吉博士は送別会に出席しており、職業としての歯科医師の歴史を学び世界各国に情報を提供する国際的な組織を作ることOttofy博士に勧めました。

1926年 フィラデルフィア (米国)

第6回の国際歯科学会で、Ottofy博士の日本の友人達は、彼に日本で数年前にされた約束を思い起こさせました。その組織が国際的な指導的歯科医によって構成される事という計画が明らかにされました。その目的は、歯科医師という職業人の間で友好関係を促進し、科学的情報を広める事に助力することでありました。



Dr. Louis Ottofy

1927年12月31日 シカゴ (米国)

大晦日に国際歯科学士会は組織化されました。

1928年 ワシントンD.C. (米国)

162の異なる国、州、および地方の250人のフェローが国際歯科学士会の認証を受けました。最初のフェロー達は、国際歯科連盟で活動的であった国際的な名声を持つ人達でした。



奥村鶴吉 博士

未 来

国際歯科学士会の会員

国際歯科学士会は、会員として承認を得ることを望む候補者を広く探しています。

以下は入会希望者に対する選定基準です。

- 開業歯科医、教育者、研究者あるいは公的な機関で5年以上の活動があること
- もし存在しているならば、全国的な歯科組織の会員であること
- 30歳以上で、国際歯科学士会が認識する歯科大学の卒業生であること
- 歯科医療また社会に対する積極的な貢献が認められ、識見と人格の両方で高い尊敬を受けていること
- 居住する部会の評議員会または理事会の承認を得ること

候補者の資格は選抜の過程で25人以上のフェローによって評価され、それは国際歯科学士会において最も高い質の会員であることを保証するものです。国際歯科学士会の会員が限定されることはその世界的な影響に逆説的に対比して、行われています。会員数は総数12,000人以上で、そしてそのうち6,000人以上が米国部会の会員であり、残りが世界中の他の部会の会員です。国際歯科学士会は世界中で高く尊敬されます。私達はその威厳を保つ者であり、私達がするすべてにおいてその基準に従って行動するという事を望みます。



国際歯科学士会の組織

会員になるということは、あたかも一つの傘のもとで構成された組織の会員になるということです。まず第一に、世界的な組織である国際歯科学士会の会員です。そして会員は国際的な16の部会のいずれかに所属します。

国際歯科学士会の部会と地域

部会Ⅰ	アメリカ合衆国	部会Ⅵ	インド、スリランカ、ネパール	部会Ⅺ	韓国
部会Ⅱ	カナダ	部会Ⅶ	日本	部会Ⅻ	台湾
部会Ⅲ	メキシコ	部会Ⅷ	オーストラリア他 3ヶ国	部会Ⅼ	中国
部会Ⅳ	南アメリカ 7ヶ国	部会Ⅸ	フィリピン	部会Ⅽ	ミャンマー
部会Ⅴ	ヨーロッパ 38ヶ国	部会Ⅹ	中東 12ヶ国	部会Ⅾ	東南アジア 13ヶ国
				部会Ⅿ	リージョン 15地域

国際歯科学士会の運営

国際歯科学士会は31人の国際理事、7人の執行部役員、および1人の事務担当により構成される国際理事会によって運営されています。国際本部は以下に置かれています。

International College of Dentists, 615 S. Saginaw Street, Suite 3008, Flint,
Michigan 48502, USA

Homepage : <http://www.icd.org>

Facebook : <https://www.facebook.com/InternationalCollegeofDentists>

国際理事はそれぞれのフェローの人数に応じて決められています。米国部会は、最大で10人の国際理事がいます。ヨーロッパ部会から3人の国際理事、カナダ部会、インド部会は2人の国際理事をおいています。残りの部会は全て、国際理事は1人です。

国際理事は米国歯科医師会総会の後に米国、また翌年はそれ以外の国で隔年毎を原則として年に1度集合し、会の運営の為に協議を行います。

使 命

国際歯科学士会 日本部会綱領



国際歯科学士会会員は歯科医療における崇高な奉仕の精神を自覚し、道義をわきまえ歯科医学の水準を高め、もって会員としての誇りを維持することに努める。

1. 常に会員である名誉を重んじて行動する
2. 会の事業には奉仕の精神をもって積極的に参加する
3. 歯科医学領域を通じて広く国際社会に貢献することを本旨とする



歴 史

国際歯科学士会日本部会について

International College of Dentists (ICD) は1928年に設立された国際組織で、ICD Japan Section (ICD日本部会)は1952年に設立されましたが、国際的に承認されたのは1958年です。また、自治権を有する部会として現在の Section VII に認められたのが1969年です。

1. 国際歯科学士会 (ICD) の設立

1920年当時、日本には歯科医学教育の学校は僅か4校でした。国際交流も極めて困難でしたが、奥村鶴吉（東京歯科大学元学長）の友人であったノースウエスタン大学元学長Dr. Ottofyが、アジア地域で20余年に亘り歯科医学、医療への普及に努めた後米国への帰途日本に立寄り、幾人かの日本の歯科医師と交流した際に、「世界各地の歯科医師が歯科の事情を知ることができる方法を考えたい」という発案をした事が国際歯科学士会 (ICD) 設立へのきっかけとされています。Dr. Ottofyの帰米後、1926年、米国フィラデルフィアの万国歯科医学会総会において日本で会ったメンバーが再会し、国際団体としてICDを結成することになりました。万国歯科医学会関係者にもその趣旨が理解され、その支援のもとに1928年7月9日ICDは米国コロンビア地区の法律で認められました。1930年に設立の基礎が確立され、設立総会と同時に第1回の会合が持たれました。そこで初代会長にDr. B.W. Weinbergerが選出され、国際歯科学士会 (ICD) が誕生しました。1930年7月、米国歯科医師会総会と同時にICDの第1回フェロー認証式がデンバー（米国）で行われました。

会員は当初300名に限定し、世界各国から1名以上の代表を選出することにしましたが、その代表選定の困難さのため会員の加入条件規定を定めて発足したものです。

2. 国際歯科学士会 (ICD) の目的

奥村、Ottofyの発案は世界各地に散在する歯科医師との親睦、歯科に関する知識の交流と普及を挙げています。就中、高度の科学技術に裏付けされた奉仕の精神、倫理的自己規制が、歯科医師ないし歯科医業という職業の根底にあり、ICDはその目的（綱領）また定款の中で、職業の倫理を強く求めています。以下に10項目から成る綱領を示します。

- 1) 世界のいたるところで歯学、医学およびこれに付随する科学の領域で活躍している人々の間に親密な関係を樹立すること
 - 2) 歯科医学および歯科医術の発展のために、歯科医師および多くの団体と協働すること
 - 3) 以上の目的のためICDは、世界の歯科界を一つのまとまった団体に統一して、歯科に関する知識の発展と普及に一層力を注ぐこと
 - 4) 歯科開業医に対して高度の医道を樹立し、その維持を図ること
 - 5) 歯科教育の水準を高め歯科開業医の高度の規正を計ること
 - 6) 歯科診療を育成し特に病院との関係を助成すること
 - 7) 歯科の歴史を不朽ならしめ、医道の水準を高めること
 - 8) 歯科疾患が原因となって起こる疾病の予防的処置を育成すること、また大学院における研究を奨励すること
 - 9) 患者に対しては常に歯科医としての品位を保つこと、また一般大衆をして歯科衛生に関心を払わせしめ、これを指導し、歯科医術の目的を一層広く認識せしめるよう努めること
 - 10) このInstitutionからFellowshipが与えられる方法を規定すること
- 規定によりICDのFellowshipは次の4つのクラスから成り立っています。

1. Fellow

2. Master

3. Life

4. Honorary



ICDの執行は民主的であることを強調しFellowshipは各人の功績に応じて与えられるものであって、政治的理由、あるいは個人的友情によって与えられるものではないこと、またICDは個人の名声を高めるために組織されているのではないこと、さらにいずれの国においてもFellowshipの授与権を専有したり独占してはならないことが強調されています。

3. 国際歯科学士会 (ICD)の組織

国際歯科学士会 (ICD) の本部は米国内におき、通常、国際本部 (College at large) と呼ばれています。本部組織として、会長、次期会長、副会長、会計、編集長、事務局長の6名が選出されることになっています。それに各Section (部会) から代表者としてのCouncilor (理事) が加わり、会の運営に当たっています。会計、編集長、事務局長については長年にわたり再任が慣例となっています。また、Councilorの任期は、選出母体の各Sectionによって異なります。戦後の1948年に世界を30のRegion (地域) に分けることが決定され、日本部会は1958年に、Region25として認められました。

現在のSectionは次の通りです。(1)USA Section、(2)Canada Section、(3)Mexico Section、(4)South American Section、(5)Europe Section、(6)India, Sri Lanka and Nepal Section、(7)Japan Section、(8)Australasia Section、(9)Philippines Section、(10)Middle East Section、(11)Korea Section、(12)Chinese Taipei Section、(13)China Section、(14)Myanmar Section、(15)Near and Middle East, Southeast Asia Section、さらに(20)International Sectionから成り立っています。

4. 国際歯科学士会 (ICD)の活動

国際本部は

- 1) 全世界ICD業務の統轄
- 2) 年次役員会を開催、各国代表によるICD運営に関する審議
- 3) ICD新会員の登録と認証書の発行、ICDキーの作製と授与
- 4) 海外講師派遣交流
- 5) ICD国際本部の行事、および世界各Sectionの事業活動の紹介などを含むGlobe誌の発行と全会員への配付
- 6) 全世界のICD会員の名簿発行と全会員への配付などの事業活動を行っています。



ICDのKey

5. ICD Japan Section (ICD日本部会)について

1920年にDr.Ottofyと奥村鶴吉を含む日本の歯科医師の先人達によって発案されたICDですが、その会員 (Fellows) としては当初日本では奥村鶴吉および永峯 徹、寺尾幸吉の3名のみでした。その後は戦争という国際事情のため、海外との連絡が一時途絶えることとなりました。

戦後の1951年、元大阪歯科大学教授で雑誌「でんす」主筆であった山内竜太郎は米国を訪れ、Westerdahl事務局長と逢ってICDに入会し、日本地域のRegentに指名されました。その翌年春ADA次期会長Dr. W. Alstadt が来日し、公式通訳として山内が諸行事に随行しました。5月山内と中原 實、松宮誠一、永井一夫、田高善七、佐藤文悟の6名がICD再建のため鳩首協議しました。9月には6名のほかに佐藤運雄、河邊清治、大塚豊美、原田良種、福島秀策、飯塚喜四郎、大井 清、木所正直、新國俊彦、鹿島俊雄、青木清雄、橋本 猛の18名が会員として認証を受けました。この頃奥村は病床にあった為、日本部会は1952年福島秀策を初代会長として会員数20名で発足しました。1958年秋、ADA会長Alstadt がマニラの帰途東京を訪問し、佐藤運雄名誉会員はじめ東京横浜のフェローたちが歓迎の宴を椿山荘で催しました。この年度に認証を受けたのは記録上、小室史郎、亀沢シズエ、鈴木鶴子、米沢和一、村瀬正雄、富田隆雄、杉山不二、湯浅泰仁、清水平一郎、小林 光、有田正俊、大木忠雄、中村利次、熊谷春雄の14名です。これで会員数34名となり、日本は国際歯科学士会日本部会 (ICD国際Section 第25地域) として承認されたのです。

日本部会としての第1回総会は、1954年4月28日に行われました。国際本部次期会長のDr. Gordon Agnewの司会により、米国、タイ、ビルマからの12名のフェローも来日して、東京椿山荘において式典が挙行されました。米沢・鈴木・亀沢・有田の4名のフェローが、Agnew次期会長に認証状を伝達されている写真と、福島初代会長が挨拶している写真がNews Letter May 1960にJapanese Section inauguratedの見出しで掲載されています。次期会長には原田良種フェローが選任され、日本部会は1957～60年の福島秀策を初代会長に、以下任期2年で1961年2代原田良種、1963年3代鈴木 勝というように、現31代隅田百登子会長まで連綿と続いています。

1960年代前半には榎本 越、佐藤貞勝、滝口弘毅、福本春夫、山本為之など後に役員として活躍するフェローが入会しました。この頃は毎年数人が入会し、キャップ、ガウンは米国の中古品を着用して認証の儀式が行われていました。第6代河邊会長の時代、1969年に丁度米国歯科医師会の創立110周年を祝う総会がニューヨークであり、学術会議から日本歯科医師会を代表して国連総会



May 1960・ICDニュースレター
日本部会発会式で挨拶する福島会長（上）
認証を受ける米沢・鈴木・亀沢・有田フェロー（下）

に派遣された河邊会長に、Westerdahl事務局長から電話がありICDの役員会へ村瀬事務局長ともども招集されました。その時の国際理事会で国際Sectionの一つ（No.25）であった日本部会が、自治権を持つ Autonomous Section No.7（Ⅶ）と正式に認められ、河邊会長が国際本部理事に任命されました。これ以降日本部会は発展期を迎え、年間の行事日程を拡大、充実して行きました。

日本部会からは、現在まで河邊清治、村田正雄、佐藤貞勝、長谷川正康、森山徳長、栗山純雄、佐藤吉則、千田 彰、橋本光二、宮崎真至フェローがInternational Councilor（国際理事）に就任しています。また日本から国際会長に就任したのは河邊清治、佐藤貞勝、森山徳長、千田 彰の4人です。

会員の地位は4つのクラスから成り立つことが規定されていて、一般会員はActive Fellowと呼ばれます。Master Fellowは会員でICDに貢献した者の中から選ばれた者、Honorary Fellowは会員以外で歯科界に貢献した者から選ばれた者、Life Member はICDの会員で定められた規定を満たした者に与えられます。日本部会ではアジアの国々から日本に留学し、歯科学の研究に励む者をフェローの推薦により審議の上、Asian Dentist Fellow とする制度を作り、現在バングラデシュからの1名が対象フェローとなっています。

また、褒章制度として国際的に貢献のあったフェローには、Ottofy・Okumura Awardが授与され、日本からは河邊清治Masterが1990年、佐藤貞勝Masterが2000年に授与されています。

6. 日本部会会員数の推移について

1970年には101名であった会員数は1980年度310名、1990年度410名と大きく増加しました。その後、2000年度384名、2010年度319名、2011年度307名、2012年度291名、2013年度288名、2014年度267名、2015年度267名、2016年度257名、2017年度269名、2018年度275名、2019年度278名、そして2020年度は284名、2021年度は284名となっています。

以上のように、1990年代以降は退会者の増加と高齢化に伴って、会員数増加の速度が鈍化しました。そこで定款改訂により、新フェロー推薦資格を2年に下げ、入会資格者の年齢を30歳に下げる等の対策を講じています。Active Fellowの減少は米国をはじめ国際的にも同ような状態にあります。



歴代会長



Dr.Louis Ottofy
(1860年－ 1939年)



奥村鶴吉先生
(1876年－ 1959年)



奥村鶴吉 ICD 認証書



初代
(故) 福島秀策会長



第2代
(故) 原田良種会長



第3代
(故) 鈴木 勝会長



第4代
(故) 大井 清会長



第5代
(故) 新國俊彦会長



第6代
(故) 河邊清治会長



第7代
(故) 富田隆雄会長



第8代
(故) 木所正直会長



第9代
(故) 村瀬正雄会長



第10代
(故) 小室史郎会長



第11代
(故) 河村洋二郎会長



第12代
(故) 松宮誠一会長



第13代
(故) 河邊清治会長



第14代
(故) 佐藤貞勝会長



第15代
(故) 河村洋二郎会長



第16代
(故)長谷川正康会長



第17代
(故)落合靖一会長



第18代
(故)菊池 進会長



第19代
(故)梅田昭夫会長



第20代
(故)西連寺愛憲会長



第21代
(故)石川達也会長



第22代
栗山純雄会長



第23代
小室 甲会長



第24代
(故)江間誠一郎会長



第25代
齋藤 毅会長



第26代
天野 恵会長



第27代
佐藤吉則会長



第28代
小林菊生会長



第29代
水谷忠司会長



第30代
宮崎 隆会長



第31代
隅田百登子会長



7. ICDの情報伝達

国際本部は各国のフェローの投稿により、Scientific and Educational Journalを10年間に亘って発行しましたが、経済的な理由により刊行中止となりました。現在は毎年3月に雑誌“The Globe”が発行されています。

日本部会では1970年春から“The Journal of International College of Dentists Japan Section”を年1回発行し、各分野で活躍するフェローによる学術的な原稿を中心とする特集、新入会員による論文、また冬期学会の特集などを掲載してきました。これとは別に、速報性を持ったICDニュースが1974年10月から刊行されました。モノクロで表紙に目次を載せたパンフレット形式だったものが、1984年1月第18号の25周年記念特集号からカラー表紙版になり、会員にも好評でした。しかし時代の趨勢もあり、さらに速報性を向上させる為に2004年にICD日本部会のホームページを、2019年には「国際歯科学士会日本部会」Facebookを開設し、随時ニュースを掲載しています。その他現在は会員支援委員会が担当し、ニュースレターを2009年11月より発行しています。他の刊行物としては、創立25周年記念誌、創立40周年記念誌、創立50周年記念誌が出版されています。2022年には国際本部から提供されたICDオリエンテーション&リーダーシップマニュアルが日本語訳で雑誌に掲載されています。

8. 日本部会の国際活動

2008年度は、森山徳長Masterが国際会長として1年間活動され、ミャンマー部会をSectionに昇格させるのに尽力されました。海外部会とは、2019年6月8日(土)、日本・韓国・台湾3部会姉妹提携協定を締結しました。また、ミャンマー部会とは交流と人道支援とを行っています。毎年認証式には上記3部会から来賓を招きアジア部会交流会を行っています。



水谷フェローによる海外ボランティア
ミャンマー歯科診療の様子



カンボジア国立ヘルスサイエンス大学に
て小峰フェロー講演



ICD USA部会
USA部会 会長Jack Clinton (Oregon
Health & Science大学歯学部長)と川嶋
フェロー

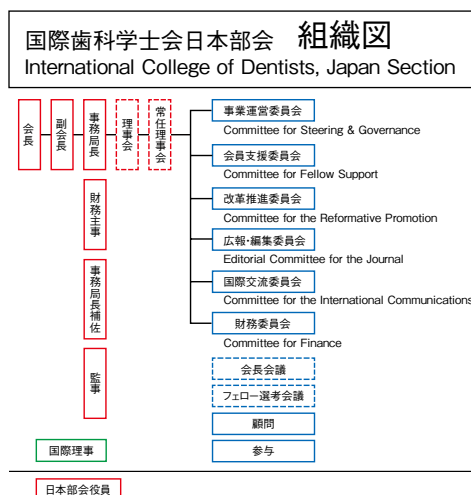
9. 現在の日本部会の活動

現在日本部会では三大事業として、毎年総会・認証式、年末集会および冬期学会を開催しています。通常、総会・認証式は5月の土曜日、年末集会は12月の土曜日、また冬期学会は3月の日曜日に行われています。

10. 一般社団法人への移行

『法人化する事により、他の学術団体との相互協力や連携、関係省庁への提言等を実効あるものにし、より社会と連携した団体として歯科医学の発展と向上を図る。』との理念のもと、第25代齋藤毅会長より2008年7月「国際歯科学士会日本部会法人化における定款改定検討及び策定」を改革推進委員会に諮問し、2010年2月「一般社団法人国際歯科学士会日本部会」が設立されました。

日本部会の組織図を右に示します。





三大事業開催地

開催年度	総会・認証式	年末集会	冬期学会
2021年度	東京「ホテルメトロポリタンエドモント」	東京「帝国ホテル」	オンラインによるライブ配信
2020年度	東京「ホテルメトロポリタンエドモント」	新型コロナウイルスのため中止	オンラインによるライブ配信
2019年度	東京「ホテルメトロポリタンエドモント」	東京「帝国ホテル」	新型コロナウイルスのため中止
2018年度	東京「東京ステーションホテル」	東京「帝国ホテル」	東京「日本歯科大学」九段ホール
2017年度	東京「アークヒルズクラブ」	東京「帝国ホテル」	東京「日本歯科大学」九段ホール
2016年度	名古屋「東急ホテル」	東京「帝国ホテル」	東京「日本歯科大学」九段ホール
2015年度	東京「アークヒルズクラブ」	東京「帝国ホテル」	東京「日本歯科大学」九段ホール
2014年度	東京「アークヒルズクラブ」	東京「帝国ホテル」	東京「日本歯科大学」九段ホール
2013年度	東京「アークヒルズクラブ」	東京「帝国ホテル」	東京「帝国ホテル」(年末集会と併催)
2012年度	東京「東京アメリカンクラブ」	東京「帝国ホテル」	東京「帝国ホテル」(年末集会と併催)
2011年度	東京「東京アメリカンクラブ」	東京「帝国ホテル」	名古屋「安保ホール」
2010年度	大阪「リーガロイヤルホテル」	東京「帝国ホテル」	東京「東京アメリカンクラブ」
2009年度	横浜「パシフィック横浜」	東京「帝国ホテル」	東京「東京歯科大学」血協記念ホール
2008年度	名古屋「ウェスティンナゴヤキャッスル」	東京「帝国ホテル」	東京「東京歯科大学」血協記念ホール
2007年度	東京「帝国ホテル」	東京「帝国ホテル」	東京「東京歯科大学」血協記念ホール
2006年度	兵庫「神戸ベイシェラトン」	東京「帝国ホテル」	東京「東京歯科大学」血協記念ホール
2005年度	京都「京都ホテルオークラ」	東京「帝国ホテル」	東京「東京歯科大学」血協記念ホール
2004年度	横浜「インターコンチネンタル・ホテル」	東京「帝国ホテル」	東京「東京歯科大学」血協記念ホール
2003年度	福岡「ホテルオークラ福岡」	東京「フォーシーズンズホテル・椿山荘」	東京「東京歯科大学」血協記念ホール
2002年度	東京「東京ドームホテル」	東京「帝国ホテル」光の間	東京「東京歯科大学」血協記念ホール
2001年度	名古屋「マリオットアソシアホテル」	東京「帝国ホテル」光の間	東京「東京歯科大学」血協記念ホール
2000年度	東京「高輪プリンスホテル」	東京「帝国ホテル」光の間	東京「東京歯科大学」血協記念ホール
1999年度	大阪「ホテル阪急インターナショナル」	東京「帝国ホテル」光の間	東京「東京歯科大学」血協記念ホール
1998年度	東京「ホテルニューオータニ」	東京「帝国ホテル」光の間	東京「東京歯科大学」血協記念ホール
1997年度	箱根「箱根プリンスホテル」	東京「帝国ホテル」光の間	東京「東京歯科大学」血協記念ホール
1996年度	横浜「パシフィック横浜」	東京「帝国ホテル」光の間	東京「東京歯科大学」血協記念ホール
1995年度	東京「帝国ホテル」富士の間	東商ビル国際会議場	東京「東京歯科大学」血協記念ホール
1994年度	京都「京都センチュリーホテル」	東京「帝国ホテル」光の間	東京「東京歯科大学」血協記念ホール
1993年度	東京「ホテルグランドパレス」	東京「日本海運倶楽部」	東京「東京歯科大学」血協記念ホール
1992年度	岡山「岡山国際ホテル」	東京「日本海運倶楽部」	東京「日本歯科大学本館多目的ホール」
1991年度	東京「東京歯科大学」 血協記念ホール・日本海運倶楽部	神戸「ホテルオークラ神戸」	東京「日本海運倶楽部」
1990年度	横浜「ホテルニュージャパン横浜」	東京「パレスホテル」	中東戦争・中止
1989年度	大阪「都ホテル大阪」	東京「ホテルエドモント」	札幌「札幌歯科医師会会館大ホール」
1988年度	宝塚「宝塚ホテル」	東京「ホテルパシフィック」	沖縄「沖縄コンベンションセンター」
1987年度	箱根「箱根プリンスホテル」	東京「帝国ホテル」	名古屋「名古屋明生ホール」
1986年度	東京「ホテルニューオータニ」	東京「帝国ホテル」	東京「銀座十字屋ホテル」
1985年度	京都「京都センチュリーホテル」	東京「ホテルパシフィック」	福岡「福岡県歯科医師会館講堂」
1984年度	東京「帝国ホテル」光の間・孔雀西の間	東京「帝国ホテル」光の間	大阪「大阪大学歯学部講堂」
1983年度	東京「ホテルニューオータニ」	東京「帝国ホテル」	東京「農協ホール」
1982年度	神戸「神戸国際会議場」	東京「帝国ホテル」	東京「農協ホール」
1981年度	京都「京都パークホテル」	東京「帝国ホテル」	東京「農協ホール」
1980年度	東京「ホテルパシフィック」	東京「帝国ホテル」	東京「農協ホール」
1979年度	大阪「大阪ロイヤルホテル」	東京「帝国ホテル」	東京「農協ホール」
1978年度	東京「白金迎賓館」	東京「高輪プリンスホテル」	東京「野口英世記念館」
1977年度	東京「ホテルニューオータニ」	東京「白金迎賓館」	東京「野口英世記念館」
1976年度	東京「ホテルニューオータニ」	東京「高輪プリンスホテル」	東京「野口英世記念館」
1975年度	東京「ホテルニューオータニ」	東京「プリンス会館」	東京「野口英世記念館」
1974年度	東京「ホテルニューオータニ」	東京「ホテルニューオータニ」	東京「日本大学歯学部講堂」
1973年度	京都「京都都会館」	東京「ホテルニューオータニ」	東京「駿河台日大講堂」
1972年度	東京「ホテルニューオータニ」	東京「ホテルニューオータニ」	東京「全共連ビル」
1971年度	東京「ホテルニューオータニ」	東京「ホテルニューオータニ」	東京「日本大学歯学部大学院講堂」
1970年度	東京「ホテルニューオータニ」	東京「ホテルニューオータニ」	
1969年度	東京「ホテルニューオータニ」	東京「ホテルオークラ」	
1968年度	東京「ホテルニューオータニ」	東京「ホテルニューオータニ」	
1967年度	東京「プリンスホテル」		
1966年度	ボルガ		
1964年度	東京「八芳園」		
1963年度	東京「渋谷獅子林」		
1962年度	東京「東急ホテル」		
1961年度	東京「目黒雅叙園」		
1960年度	東京「ダイヤモンドホテル」		
1959年度	東京「東京ボーリングセンター」		
1958年度	東京「ダイヤモンドホテル」		



認証式

認証式

毎年5月に行われる3大事業のひとつ。ニューフェローとの記念写真は毎年の恒例行事となっています。



2020・2021年度 ニューフェロー（Zoomとのハイブリッド開催）



2019年度 ニューフェロー



2018年度 ニューフェロー



2017年度 ニューフェロー



2016年度 ニューフェロー

総 会

毎年5月の土曜日に開催されます。



水谷会長挨拶 (2016)



宮崎会長挨拶 (2019)



隅田会長挨拶 (2021)



益川敏英先生の講演
(2016)



JAXA山中浩二氏講演 (2017)



堀日本歯科医師会会長
講演 (2018)



William Reed氏講演 (2019)



総会参加者 (2017)



ICDアワード特別賞受賞 (2021)



初のハイブリッド開催 (2021)

年末集会

毎年12月の土曜日に開催されます。



年末集会山口トキコ氏の講演
(2018)



年末集会カデロ大使の講演
(2019)



年末集会 (2021 集合写真：福田様より)

冬期学会

毎年年度末の日曜日に開催されます。



冬期学会パネルディスカッション (2016)



冬期学会講演者の方々 (2018)



アトラクション



バイオリン演奏 (2015)



二胡演奏 (2017)



太神楽曲芸 (2019)



フラダンス (2016)



和太鼓演奏 (2017)

オリエンテーション／国際交流



伊勢神宮内宮参拝 (2016)



台湾・韓国・日本部会連携合同調印式 (2019)



国際会長を囲んで (2018)



ニューフェローを囲む会 (2020)

ICD 刊行物／ホームページ

学術誌



ホームページ



Facebook



<http://www.icd-japan.gr.jp>

ジャーナル／毎年7月発行 The Globe (HPより)



入会規定

国際歯科学士会 International College of Dentists (ICD) の入会規定は次の通りとする。

1. 入会希望者は、フェロー 2 名の推薦を得て、所定の入会書類を提出し、フェロー選考会議の審査を受けなければならない。
2. 入会資格
 - 1) 歯科大学卒業、またはそれと同等の資格を有する者。
 - 2) 卒業後 6 年以上、年齢 30 歳以上で、学位を有するか、またはそれと同等の業績を有する者。
 - 3) 人格・識見ともにすぐれた者。
 - 4) 本会の趣旨を十分に理解し、綱領、定款を遵守し、かつ協力しうる者。
 - 5) 本会の総会、年末集会、冬期学会等の集会に出席可能な者。
3. 推薦者の資格
 - 1) 推薦者は、入会后 2 年以上のフェローであること。
 - 2) 推薦者は入会者を保証し責任を負う。
4. 推薦方法
 - 1) 入会希望者の選考調査表、履歴書、業績書、学位論文別刷またはそれに相当する発表論文別刷、ならびに推薦者 2 名による推薦書を提出すること。
 - 2) 推薦者は連署をもって所定の推薦書を入会申込書類と同時に提出すること。
5. 入会金
入会者は、国際本部および日本部会入会金を納入しなければならない。

【申込期日】

入会書類の提出は随時受け付けています。なお、毎年 12 月末日までに提出された方は、フェロー選考会議を経て、翌年の総会・認証式において認証されます。

【申込先】

一般社団法人国際歯科学士会日本部会事務局
〒161-8558 東京都新宿区下落合 2-6-22 一世出版(株) 内
TEL : 03-3952-5155 FAX : 03-5982-7751

ICD 紹介しおり 改訂版 (2022 年 日本語版)

2022 年 5 月 26 日印刷

2022 年 5 月 30 日発行

発行者 隅田百登子

編集 広報・編集委員会

担当役員(副会長) 富士谷盛興

常任理事 今村嘉宣/理事 佐藤 聡/委員長 佐藤裕二/

副委員長 白壁浩之/委員 武内久幸/堀江 卓/林 昌二/

坂本輝雄/下村直史

監訳 国際理事・国際交流委員会

国際理事 宮崎真至

常任理事 鈴木佳弘

発行 一般社団法人 国際歯科学士会日本部会

〒161-8558 東京都新宿区下落合 2-6-22 一世出版(株)内

TEL : 03 (3952) 5155 / FAX : 03 (5982) 7751

E-mail secretary@icd-japan.gr.jp

印刷所 一世印刷株式会社

© International College of Dentists Japan Section 2022

※ 2 ページから 4 ページまでは国際本部が作成した文章を翻訳したものです。

